

煎栗にくり焼栗やまくりの林はやしは田原郷内名村たはらがうないなにあり。むかし浄見原きよみ天皇はらは世業を避て吉野山に閑居し給ふ時、大友皇子おほとも疑心を挟んで襲給ふ。天皇こゝかしことさまよひ、此所にいたり給ふ。里人怪み、けはひけだかく見えければ、高槻たかつきに栗をやき又茹などして上けり。天皇これを見給ひて、我思ふ事叶ふべきは生出て茂るべしとて、片山かたやまぞへに埋給ふ。里人不思議に思ひ、印を立おく。遂に大友王子は山崎やまざきの合戦かつせんに敗し自害し給へり、これによつて吉野王子位よしのわうじに即、これを天武天皇てんむと称す。此栗樹次第に繁茂し、凡方四町の栗林となる、これを御栗みくりす栖といふ。焼たるが如く煮たるが如くの栗今に生じて、当国七不思議の其一なり。天皇宝祚を継給ふ吉瑞によりて、今に毎歳まいざい禁裏きんりへ貢上るなり。「調進の時節は、公務より官人来つて守護す、林中乱入禁制の高札は林の入口にあり」